



セメントサイロ跡地事業者決定 大和ハウス系ホームセンター

8月5日、南千住地域で最大の開発地であった「セメントサイロ」跡地の事業者が決定しました。3社代表者によるプレゼンテーションが行われた後JRと荒川区が協議し、事業者の決定をしました。事業者はTVのCMでおなじみの「大和ハウス工業」



で、今後は大和直営のホームセンターを開設します。大和のホームセンターに決定したのは「地域の賑わい創出」「区のイメージアップ」「業務に対する意欲」「事業性」などの得点で818点を獲得。他の企業は695点・596点で大和が総合的に優れていました。

開設は28～9年頃？サイロ撤去費用に5億円超

今後の予定としては、今年の秋にJRと事業の契約締結後、今年から来年にかけてセメントサイロを撤去。27年から建設工事が始まることを想定すると、ホームセンターの開設は2年後の28年頃になるのではないのでしょうか。

区のイメージアップに資する設計 5階建て22,000㎡

建物は5階建て、延べ床面積22,000㎡。敷地にはホームセンターのほかに飲食店棟・カフェテリアを配置。さらにはイベント広場を作り区や地元商店街とのイベントも可能となっています。災害時対応には防災備蓄倉庫の設置。物資の提供については今後、区と協議するとなっています。このことにより、地域商店街も知恵を使って従来型の商売でなく新たな取り組みを期待している消費者もたくさんいます。私としても協議会の一員として様々な提案をしてきて良かったと思っています。

リバーサイド病院出産者数 30%増 1年間で700人を超える

今から5年前、平成21年に開設した「東京リバーサイド病院」。日本医科大学との連携病院として確実に患者数の増加を見せています。診療科目も10科【産科・婦人科・小児科・内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・麻酔科・皮膚科・泌尿器科】体制を整えています。特にここ数年、患者数の増加が著しいのが産科で、1年間で700人を超え始めました。1日2人の新生児が生まれています。当時、8丁目住民多数の意志により誘致した病院ですから、今後の成長を願います。



地域住民の声が実現するか

日曜日も運行を！北千住駅前～南千住駅路

昨年3月から運行開始した京成コミュニティバス【北千住駅～南千住駅行き】路線バス。現在、1日の乗客数は・・名位となっています。この路線は現在、毎時1～2本で日曜日は運行していません。利用者の中には「千住汐入大橋」を渡り、関屋駅・牛田駅を利用する方、南千住駅に行くのが遠い方が利用しています。運行主体は京成バス。荒川区は補助金交付をしていません。区議会も9月議会が始まりますので調査をしてみます。



都バス停留所の時刻表をもっと大きくしてほしい！

崎山都議に調査依頼しました

利用者にとっては当たり前で観ている「時刻表」小さい字が辛くなっているけど、我慢するしかないのか。この声にこたえて崎山都議に調査を要望しました。

参加しよう！各町会防災訓練

9月7日〔日〕午前9時～12時

リバーパーク汐入町会 【汐入公園】

9月7日〔日〕午前9時30分 11時30分

南千住中央町会 【第三瑞光小学校】

10月5日〔日〕午前9時～12時

南千住3丁目親交会 【石浜ふれあい館】

【訓練内容】

安否確認・避難者の把握・無線機の取扱・簡易トイレの組み立て・炊き出し訓練等の組み合わせ。

盛夏の中3,200名集う「汐入まつり」

来年はミストや大型テントなど涼しさ対策を要望

区内はもとより都内でも有数な規模の8丁目「リバーパーク汐入町会」。現在、住民は約12,000名。高齢者の割合は12%近隣地域に比べて子育て世代が圧倒的に多い若い町会です。8月3日、炎天下の中、今年で22回目を迎える「汐入まつり」会場では各自治会や団体のテントが30張り。皇室献上の福島・桑折町の桃の販売を始め、飲食店やゲームコーナーの outlet。ステージでは第三中学校のバンドや【写真上】フラダンス・歌など、子供コーナーでは大型プールやSL機関車などで盛り上がりました。最後は桃の当たる抽選会を行い、3時ごろ終了となりましたが、暑さ対策が課題になりました。



広報部・吉野さん撮影

奈良の大仏より古い 石浜神社

南千住3丁目に鎮座する石浜庄の総鎮守「石浜神社」【以下、神社】。724年聖武天皇の勅願によって創建されたと伝えられています。平安京遷都が794年ですから、奈良時代まで遡ります。奈良の大仏開眼【752】空海・最澄が活躍した時期よりずっと前の時代の創建ですから、いかに古い神社なのかお解りいただけると思います。現在地に移るまでの神社は何度か移転し、また名称も変わってきました。始めは台東区今戸のパワースポットで有名な「今戸神社」付近でした。神社は朝日神明宮・石浜神明社とも言われていました。明治4年の布告で「石浜神明社」と公にされます。「石浜神社」と言われるのは大正10年頃、敷地に隣接している「真先稻荷神社」と統合してからではないでしょうか。神社は江戸時代までは大変に栄え、氏子区域は現在の言問橋あたりまで及んでいたと伝われ、特に鎌倉時代に入り頼朝を応援している千葉氏の徳望を集め大いに繁栄しました。神社の言い伝えによると 源頼朝が藤原泰衡征伐のため奥州へ下るとき、神社祈願したこと 征伐後に褒美により宮殿を造営寄進したこと 蒙古軍の九州襲来の時にも鎌倉將軍を勅使代理として戦勝祈願をしている等が伝わっています。境内の面積は明治28年の南千住町役場の台帳には敷地面積2114坪(7,000㎡)で、場所は東京ガスの敷地の中に入っていたようです。



真先（真崎）稻荷神社創建と繁栄

真先稻荷神社（江戸の半ばより真崎と称す）は今から460年くらい前に石浜神社の隣地に創建されましたが、八代將軍吉宗の三男が篤く信仰され、社殿の再建を図り、同家の祈願所とされたこともあり境内に田楽茶屋などが現れ、大いににぎわったとの記録もあり江戸市中にもその名をさせ、広重の浮世絵・隅田川名勝八景「真崎夜雨」も描かれました。大正15年。大震災後の都市計画により石浜神社と合併・移転となります。



広重・真崎夜雨